

# コロナ時代の「共に歩む旅」

まつもと ひでき  
松本 秀樹

いずみブロックでは、2007年から求道者のための信仰養成の集い「共に歩む旅」が行われています。

きっかけは、当時いずみブロックを司牧していた松浦謙神父様の「福音宣教に具体的に取組もう」という呼びかけでした。

具体的な進め方は、南アフリカ共和区のルムコ研究所が出版した「求道者と信仰の旅を共にする手引き」をテキストとして使用、働いている人が参加しやすいよう平日の夜に開催、1クール10回、年間3クール、会場は、3教会を順番に巡回しながら実施しています。司祭は1メンバーとして参加、プログラムの進行役は各教会の信徒が輪番で務めています。この間、12人の受洗という実りがありました。

その長く歩んできた集いが、コロナウイルス感染拡大でやむを得ず3月から4か月間中止、ようやく7月から再出発しました。7月7日にその第1回の集まりがあり、コロナウイルス禍で体験したこと、気づいたこと、自分の中で新しくしたいことを分かち合いました。

その一部をご紹介します。

- ・生活そのものの中に信仰がある。日々の生活の中にイエス様がいた。キリストを信じて自分を見直していきたい。
- ・毎朝「毎日のミサ」を読んで黙想している。聖書の世界に入ることにより、イエス様と一緒に生活する。一つ一つの行いを丁寧に、イエス様の存在をいつも感じながら生きていくようにする。
- ・最後に頼れるのはみ言葉の中でイエス様を見つめ直したい。
- ・できることをやって、前に進んでいくようにしている。具体的には、連絡の取れない家庭に手紙などで連絡をとって返信をもらう方法を取っている。会えない中でも人との繋がりを切れないようにしたい。
- ・我々の社会は間違った方向に向かって来たのでないか。教皇様がおっしゃっているように、人間の世界と自然との共存を考え直す必要がある。
- ・教会の在り方、ミサなどもっと違ったアプローチがあるのでは。一回立ち止まって考え直す必要がある。
- ・人との繋がりの大切さがわかった。医療従事者の大変さを、このコロナウイルスのことで、よく分かった。陰で頑張っている人のことを大切にしたい。
- ・今一番辛い時期を過ごしている。何のためにこのようなことになっているのかを考える。積極的に今、自分がどうするべきかを考える良い機会となる。

これらの分かち合いから、まず浮かび上がってきたのは、イエス・キリストとの関係です。イエスは、私たちにこう呼びかけられます。「あなたがたはわたしの友である」。(ヨハネ 15・14) 私たちは、このイエスの熱い友情に応えるために、祈りの内に、日々の生活で体験する、喜び、苦しみ、悩み、恐れをイエスにぶつけ、語り合う恵みを頂いています。今後の集いで、このことへの信頼を一層深めていきたいと思えます。

もう一つのこと、生き方の見直しと、人と人とのつながりです。教皇様は今回の未曾有の出来事について、「このことは神の裁きではなく、何が一番大切かを見極め、行動に移していくようにとの神の呼びかけである。わたしの生き方を立て直し、神と他者に向かわせる時です」と強調されました。それで思い起こされるのは、昨年の日本司牧訪問の青年との集いでの呼びかけです。「最も重要なことは、何のために生きているのではなく誰のために生きているのか、誰と人生を共有しているのかです。神はあなたに、他者のためにも存在してほしいと望んでおられます。神はあなたの中に、たくさんの良いもの、賜物を置かれましたが、それはあなたのためというよりも他者のためなのです」(使徒的勧告『キリストは生きている』286)。この教皇のメッセージは、イエスが告げた最も重要な掟「あなたの神である主を愛しなさい。隣人を自分のように愛しなさい」の実践を促しています。

わたし たちが ひびで あひと がか ひと たしや おも ささ きょうかん い かつ ちた ことば おこな  
私たちが日々出会う人、関わる人に、他者を思いやり、支え、共感する生き方の豊かさを、言葉と行いで  
つた 伝えることができるよう、これからも分かち合いを通して相互養成に努めて参ります。